

16 踊子歩道

踊子の面影を追って 名作の詩情あふれる旧天城街道へ

川端康成の名作「伊豆の踊子」の書き出しは天城峠であるが「踊子歩道」の起点は浄蓮の滝である。できれば二つ手前のバス停「天城山荘」で下車して、第一回「伊豆の踊子」の映画監督である五所平之助の句碑を見ていきたい。詳細は24頁「天城遊歩道」の項を参照。

浄蓮の滝までの交通は修善寺駅から昭和の森会館・河津駅行きのバスで35分。浄蓮の滝で下車したら日本の名瀑100選に選ばれた浄蓮の滝を見てみよう。入口に「伊豆の踊子像」がある。

踊子茶屋の前から旧天城街道（下田街道）に入る。穂積忠の歌碑見て、さらに進むと島崎藤村の文学碑。国道に出る手前のスギ林を左に行くと横光利一の文学碑がある。

スギ林を抜けた所に今上天皇が皇太子時代に、天城を訪れた時のお手植えの杉がある。渚木の中の水路沿いに行き丸太の段を国道に降りる。国道を横断してスギ林を抜けると道

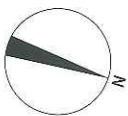


▲伊豆の踊子像

の駅「天城越え」・昭和の森会館に出る。森林博物館（無料）と伊豆近代文学博物館（有料）を見学していこう。国道の反対側にはシャクナゲの森があるグリーンガーデンがある。

駐車場の端からカエデや林・杉・松の林を抜けると広場に出る。滑沢渓谷への林道に入り、川沿いに進めばわさび田がある。橋の向こうに井上靖の文学碑が見える。

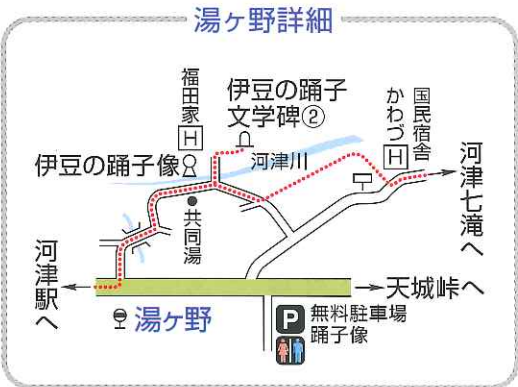
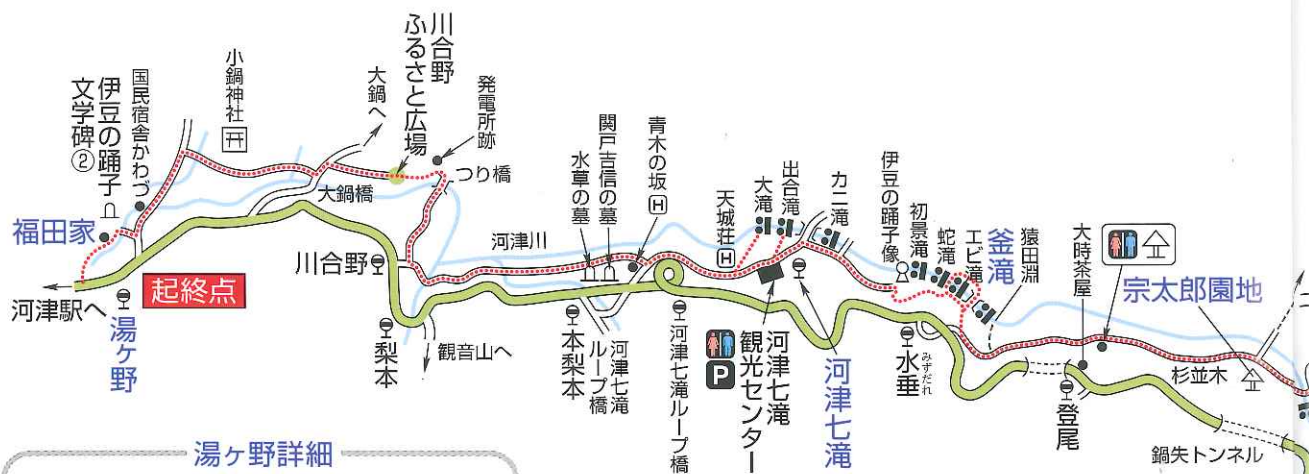
コースは橋の手前から丸太の段を上がる。本谷第3砂防ダムを見てしば



▲旧天城トンネル

所要時間：約6時間25分

区間	所要時間
修善寺駅	バス 35分
浄蓮の滝	50分
昭和の森会館	50分
宗太郎園地	55分
釜淵	45分
河津七滝	50分
湯ヶ野	バス 14分
河津駅	バス 14分



「伊豆の踊子文学碑」を見て白橋を渡ると水生地。つづら折りの道を行くと旧天城トンネルだ。トンネルに入るとヒンヤリと冷たい。踊子が歩いた当時は真っ暗であったが、今はしゃれた明かりがあるので歩きやすい。トンネルを抜けるとつづら折りの下り道。寒天橋を過ぎると二階滝。新緑の中に白い滝が落ちている様子は、心洗われる思いがする。さらに旧街道をしばらく行くと右へ降りる細い道の分岐。これを下り国道を横断して杉・松の林に入る。河津川にかかるトラス橋手前から左に行くと平滑の滝があるのを見てみよう。トラス橋を渡ってしばらく下ると林道に入る。左に林道を下れば宗太郎園地。ここからしばらく美しい杉並木が続く。

湯ヶ野の入口を見送ると河津七滝の釜淵へ下る道がある。260段の急な階段を下ると釜淵。歩道に従ってエビ滝・蛇滝を見て初景滝へ。ここには「踊子と私」の像があり、絶好の記念写真のポイントだ。舗装された道を力二滝・出合滝と見学し、天城荘の中庭にある七滝で一番爽快な大滝を往復する。

戻ってループ橋の下をぐるり旅館「青木の坂」から右へ下って行く。国道に出る手前から右に曲がりつり橋を渡る。みかん畑を通り広い道に出たら左に下る。大鍋橋の手前を右に曲がり、河津川を左に見て進むと小鍋神社がある。橋を渡って丁字路を左に行くと国民宿舎かわつ。宿舎の左手から河津川河畔の道を行くと対岸に踊子の宿・福田家が見える。福田家は伊豆の踊子の私が泊まった宿で、入口に伊豆の踊子のブロンズ像がある。近への川沿いには伊豆の踊子文学碑。湯ヶ野までは河津川の渓谷に沿って三里余りの下りだった。峠をこえてからは、山や空の色まで南国らしく感じられた…。川端康成直筆の一節が刻まれている。踊子が裸で飛び出したという共同湯は、建て直されて福田家の対岸にある。共同湯の前を通り石段を上がれば終点の湯ヶ野バス停に出る。